第１回昭島市産業振興計画策定委員会　議事要旨

【日時】令和８年６月５日（金）午後６時 30 分～８時 30 分

【場所】昭島市役所３階　庁議室

【出席者】

１　委員

松本祐一委員（多摩大学経営情報学部教授）、芳賀啓一副委員長（一般社団法人首都圏産業活性化協会事務局長）、榎本博之委員（栗田工業株式会社アドバンスドイノベーション本部管理部門業務部長）、井ケ田博委員（昭島市商工会商業部会長）、矢野敏樹委員（昭島市商工会建設業部会長）、長瀬透委員（昭島市商工会工業部会長）、武藤茂委員（昭島市商工会事務局長）、相川孝史委員（多摩信用金庫地域支援グループ官民連携担当主任調査役）、片桐正博委員（地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター多摩テクノプラザ所長）、伊藤真生委員（公益財団法人東京都中小企業振興公社課長代理（調整担当）・副支社長）、坂本陽委員（昭島市農業生産団体連絡協議会会長）、平野優美委員（東京都産業労働局農業振興事務所農務課課長代理）、堀井真理子委員（一般社団法人昭島観光まちづくり協会事務局長）、小澤加枝子委員（公募市民）、藤森美和委員（公募市民）、和田奈美委員（公募市民）

２　事務局

臼井市長、枝吉市民部長、森田産業活性課長、新妻産業振興係長、飯島都市農業担当係長

３　傍聴者

なし

【次第】

１　開会
２　委嘱状の交付
３　議題
（１）委員長及び副委員長の選任
（２）産業振興計画について
（３）今後の進め方について
（４）昭島市の現状について
４　その他
５　閉会

【配付資料】

・資料１　昭島市産業振興計画策定委員会要綱
・資料２　昭島市産業振興計画策定委員会委員名簿
・資料３　昭島市産業振興計画についての報告書（令和５年３月）
・資料４　昭島市産業振興計画（後期計画）の進捗状況
・資料５　昭島市産業振興計画策定委員会の今後の進め方について
・資料６　昭島市産業振興計画の策定に向けてのスケジュール
・資料７　昭島市の産業及び調査概要について
・資料８　農業者ヒアリング調査概要について
・参考資料　昭島市総合基本計画（抜粋）
・参考資料　昭島市産業振興計画（概要版）

【議事要旨】

１　開会

２　委嘱状の交付

〇交付に先立ち、市長挨拶。

（市長）

日頃より、本市の市政運営に、格段のご理解ご協力を賜り、感謝する。また昭島市産業振興計画策定委員会委員を引き受けていただき、お忙しいなか第一回の委員会に出席いただいたこと、厚く御礼申し上げる。

現在昭島市は過渡期であり、前回の総合基本計画を策定したときより人口が伸びている（６月１日現在人口 11 万 6,765 人）。伸び率でいうと、立川が１番目で昭島は２番目。これは、常日頃から、昭島のおいしい水、商業、工業、建設業、農業、観光において、市民の皆さんと、また本日ご出席いただいている関係者の皆様などのご意見を頂戴しながら進めさせていただいた結果の一つだと思っている。

全国でみると約 90 万人の人口が毎年減っており、今後さらに減ると言われているなかで、今後、昭島市がどうやって生き残っていくのか、今回、産業振興計画を策定し、計画に基づいてまちづくりを進めていくなかで、さらに昭島っていいよね、大好きだよって市民の皆様に言っていただけるように、今後とも頑張っていきたい。本日は本当にお忙しいなかお越しいただいたこと、またご意見を頂戴することを大変ありがたく思っており、よろしくお願いしたい。

〇市長より、委員を代表して松本委員に委嘱状を交付。委嘱状交付後、各委員及び事務局職員の自己紹介。

○公務のため、市長は退席。

３　議題

○事務局より配付資料の確認。
○事務局より当委員会の取扱いについて説明。
○当委員会は原則公開制とする（＊ただし、個人情報保護の必要性や委員会での公正若しくは適正な意思形成に著しい支障があると認められる場合にはこの限りではない)。
○当委員会は議事録を作成し、公表する。

（１）委員長及び副委員長の選任

○事務局腹案により、委員長には松本委員、副委員長には芳賀委員が選出され、一同の承認を得た。

（２）産業振興計画について

○事務局より産業振興計画の進捗状況について説明。

（３）今後の進め方について

○事務局より今後の委員会の進め方、計画策定に向けてのスケジュールについて説明。

（４）昭島市の現状について

○事務局より市内事業者アンケート調査結果、農業者ヒアリング調査結果について説明。

（藤森委員）

農業者ヒアリング調査概要について、「体験農園や市民農園の開設」及び「土地の貸借」について、「したくない」の割合が多いが、消極的になっている理由は。

（事務局）

まず市民農園の開設について、市民農園はご自身で貸す畑の区割りをし、開設するにあたっては、広く一般的に募集をかけなければいけない。また、定期的に更新が必要である。市民農園を利用される方が利用するトイレや水道等の設置をしなければならないため、上下水道を入れるだけで多額の費用がかかり、やる人が少ない。また、体験農園については、利用者が使ってない時の畑の手入れをしなければならないため、自分で収穫できる野菜を作る方がほとんどであるのが現状。所有している農地を貸借してもいいかというところで、農

地は農業委員会が許可しないと借りられない。そのなかで、貸借の円滑化法という法律ができ、例えば５年間貸しますと言うと、勝手に５年後には返ってくる。今までの貸し借りは、５年貸す約束をしても更新を忘れると返してもらえなくなるということがあり、土地を持っている農家は、それを懸念して、ずっと貸したくないというのが今までの流れだった。高齢になり農業を継続できない方のところにお伺いして、こういう制度の話をすると、貸してもいいという方が増えてきた。

（坂本委員）

高齢化や販売先がない場合には体験農園などの選択肢も浮上してくるが、まだ自力で販売したい意向が強いということが、こういう数字に表れているのではないか

（平野委員）

昭島市の農業は体験農園というより、自ら生産したものを直売等で販売する従来の生産販売スタイルというイメージがある。他自治体の農業振興計画にも関わっているが、どちらかというと市民を巻き込んだ体験農園や学校給食に舵を切って、力を入れているところもある。市の方向性の違いはあると思うが、体験農園や市民農園をしたくないのは、おそらく制度のことをよくわからないというのもあると思う。例えば、区部で先進的に市民農園や体験農園に取り組んでいる事例では、人によっては、600～700 万円ぐらい売り上げている。お金にならないわけではない。また昭島市の場合、体験農園等ができるくらいの一団での農地が少なく、小規模な農地がいろいろな場所に点在しているのも要因ではないか。

（長瀬委員）

昭和館が閉館したことで、大規模な集いが市内でほとんどできなくなったという状況。みんな立川に行ってしまっている。市外からも人が集まるような場にしていかないとまちは活性化しない。また、ＧＬＰについて、雇用や水、電気の課題がある。こうした方が良いと研究していくことが、市の財政にも繋がってくると思う。また、課題解決のため、市民と一緒に対話していくような場ができると、良いと思う。

（松本委員長）

今の話は昭島の北口の開発の話だと思うが、おそらくこの 10 年間でかなり変わってきている部分だと思う。この委員会の中でもそこは避けて通れない部分だと思うので、皆様からもご意見をいただきたい。

（井ケ田委員）

ＧＬＰの問題において一番懸念することは水だと思う。データセンターを作るということは、相当の電力が必要であり、それを冷却する水も必要。また、

交通問題に関して、大型車両が 5,000 台以上入ってくる状況のなかで、果たしてそれがどうできていくかが懸念されるところ。相模原のＧＬＰを実際に視察してきたが、そこでは、地域貢献をもとに、それぞれのまちの中でコミュニティを作るような施設をつくるという意識を持っている会社だということが分かった。それがどのような形でできるかわからないが、それなりに人が集える場所は作ってくれるのかなとは思う。

（松本委員長）

今後どう対話をしていくかという要素は、この計画の中でもちゃんと入れていく方がいいと思う。

（事務局）

昭和館がなくなってしまったことによって、やはりそういう人が集う場がなくなってしまい、いろんな方々にとって大変な状況であることは市としても危惧している。それを少しでも補うために、昨年 12 月１日に建設したイーストテラスという施設で集いの場を確保しているが、まだまだ課題もあるため、利用者の意見も聞きながら改善できるところは改善していきたいと市長も常々考えている

（相川委員）

昭島市の産業、市内の事業者のアンケートについて、課題は「従業員の確保」が最も多く、次いでエネルギー原材料価格の上昇ということで約 10%位の事業者の方が影響を受けている。これを調査したのが令和７年ということだが、当金庫でつい先月、中東情勢の影響に関するアンケートをとっており、影響が一番大きいと感じた項目は、「原材料資材等のコスト上昇」で 49%。続いて「エネルギーコストの上昇」が 33%。「原材料資材等の調達の遅延」が 29%ということで、市が調査をした時と比べると、５倍位の影響を受けているという感じである。

（矢野委員）

原材料の値上げでいうと、色々な建築資材が去年も値上げされている。今回の中東情勢があって、余計そこに拍車がかかっている。コスト上昇を煽っている業者もいるのでその辺の見極めが大事。

（松本委員長）

そういった意味では、コスト高に対して、この産業振興計画として何ができるのかという事を検討しなければならない。それに対して、行政としてどうするかとか、市民としてどう関わるのかというところが、非常に難しい。

（伊藤委員）

原材料価格の高騰というところで、皆さんが困っているのは価格転嫁がうまくできないというところ。価格転嫁を交渉するには、なぜ原材料が上がって、

それをなぜ売値に反映させなくてはいけないのかというところをロジック的に説明する必要がある。しかし、説明するための材料やデータがないので行き詰まっている方が非常に多いのかなと思っている。そこは、専門家のアドバイスとともに必要なツールをしっかり整理して、自分たちで原因を分析できるような環境を整えることが必要。その会社に合った状況の設備投資とか、分析の仕方とか、そういったところをセットで、知見を進歩させていくための支援が必要。

（松本委員長）

逆に、こういうピンチだからこそイノベーションが起こったりとか、いろんな新しい技術が生まれたりとか、そういうところも決してないわけではないと思うが、最近の状況をみてどうか。

（片桐委員）

工業の課題で、工業用地の不足について、これは他のところでも聞く話だが、すごく軌道に乗ってきて工場を拡張したいという時に、その隣接のところを確保できない。そこで地方の都市に行くと、税制優遇があり、そちらの方に流れてしまうのはよくある話。税制優遇はなかなか厳しいと思うので、そういう拡張をしたい人とちょっと縮小したいという人の情報がやりとりできると、規模は維持できて雇用も継続しながらできるのではないか。

（松本委員長）

昭島の場合は農業もそうだが、都市型農業で、本当にまちの中に農地があり、工場もまちの住宅街にあり、なかなか拡大もできなければ、騒音も含めた様々な問題が昭島の課題として常にあったような気がする。これをどういうふうに解決するか。

（榎本委員）

課題が同じだと感じており、先ほどのアンケートにもあった価格の上昇を超えて、今はもう同じものが手に入らないと感じる。その流れを考えると、今まで入っていたものが手に入らないということは、代替品を手に入れなければいけない。代替品を作れるような力があるなら、新しい道が開けるのではないか。

（和田委員）

市の北側を歩くと工業地域だということを感じる。ただ最近は、どちらかというとマンションがどんどん建ってきているので、住宅地として変わりつつあるなという印象。昭島市民の人たちのアイデンティティというか、わがまちは何が魅力か気づいてない人が多いのではないか。自分のまちを見直す機会はなかなかないので、そういったところを行政側がＰＲしなくてはいけないと考えている。産業振興計画に「イノベーション創出の支援」のようなものは今まで

なかったと思うが、ここ数年で多くの自治体で取り入れている。先ほど挙がっていた「原材料の高騰」等の課題を考えると、代替品をどこで作るかが課題になってくると思うが、現状では探しようがない。その探す仕組みの一つとしてオープンファクトリーというものが、青梅市と八王子市で連携して始めている。

（藤森委員）

現在、つつじが丘団地で週末に行われるイベントのリーダーをボランティアでしている。日曜日になるとシャッター街になってしまう場所ではあるが、つつじが丘団地の６号棟は賃貸であり、テナントが埋まっている状態。足繁く通ううちに、中に入っている事業者さんたちが自分たちで頑張ろうとしているのが色々見えてきた。また、まちづくり昭島北というコミュニティ協議会が活躍しており、商店街だけではなく、その商店街を包括したエリアの住民の方たちが自発的に様々な動きをしているということを知り、魅力を感じて勉強させていただいている。西立川から始まり拝島までの５つのＪＲの駅ごとの商店街やまちの構成があるので、横の繋がりで色々なことができたら面白いと前から思っている。自分の使う駅だけじゃなく、横断してお互いに交流できることで活性化が進むのでは。

（小澤委員）

昭島に長く住んでおり、昔からの昭島を知っている者としては、昔から比べたら豊かになったし、大きな商業施設ができて便利にもなった。ただ、大きな商業施設ができたことにより、小さなお店が減っていることは残念に思う。そういう小さなお店などが元気になるような、明るく過ごせるようなまちづくりができたら良いと思う。

（松本委員長）

そういう意味では、昭島市の産業振興計画はこういう都市部にしては珍しく、以前より観光の計画が入っている。非常に特徴的だと思う。

（堀井委員）

昭島には、目立った観光スポットがあるわけではないので、昭島に観光を目指してくる方は少ない。一方、昭島に住んでみたいからちょっと来てみたというような方は多い。私達は、観光まちづくり協会として、観光というよりも地域の活性化をしているように感じる。皆さん住みやすいまちだとおっしゃっているが、一方で、産業が十分に活性化されてないというのは、住みやすさと産業振興が両輪で動いていかないと、昭島市が元気にならないのではと思っている。両輪で動くことで、昭島の知名度が上がり、ますます興味を持っていただけるのではないか。今そこを課題にしている。特に、若い人はスタートアップ企業などをやっているので、若い人に住んでもらって、そこでスタートアップ

を始めて欲しいという思いもある。
（松本委員長）
　その両輪という考え方は、非常に昭島らしい感じがする。そういう意味では事業者全体の傾向というのが、商工会として、何が１番の課題か。
（武藤委員）
　今の中小規模事業者は、大変厳しい状況にある。これはコロナ渦から始まって、大きく世の中が変わって、またここにきて世界情勢が大きく動いている中で、対応していくことが大変難しいからである。今後、産業振興計画を策定するうえで、大きく変わってきているのは、ＡＩやＤＸ。その辺について、市としてこれからどうやって取り組み、アンケートにもあった人材不足を解決し、また会社を進めるなかでどうやったら昭島市の産業を発展させることができるのかが課題である。中小企業には様々な課題があるなかで、一つ一つ解決できるような方向も踏まえた産業振興計画という形にしていただきたい。そのために私たちも協力していきたい。
（松本委員長）
今日の話の中で、皆さんから出たキーワードで、「対話をして」とか、「市民同士」とか、「両輪」の話とか、昭島だからこそできそうな関わり方をつくることが大事だということが分かった。

４　その他
（事務局）
　次回は、７月 28 日（火）午後６時 30 分～開催とする。

５　閉会
（松本委員長）
　これにて、第１回の昭島市産業振興計画策定委員会を終了したい。